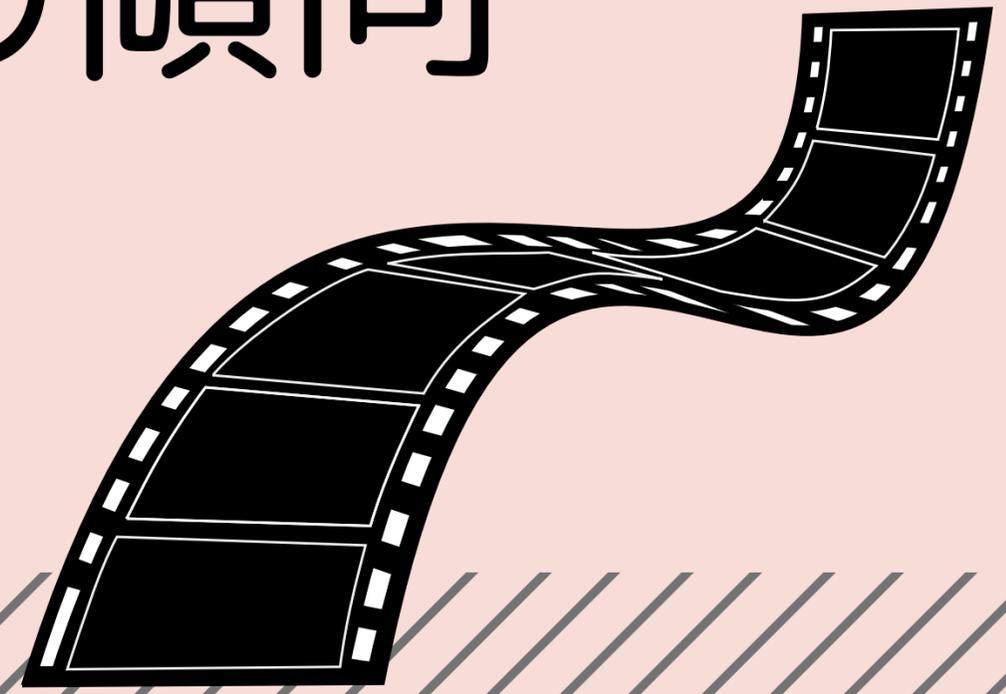




世界歴代興行収入



TOP100の映画の傾向



1, はじめに

私は映画鑑賞が趣味である。しかし、私はアマゾンプライムで視聴できる心温まる映画ばかりを選ぶ傾向がある。そこで、世界歴代興行収入TOP100の映画を可視化し、分析することで「どのような映画が流行するのか」という傾向を明らかにするだけでなく、有名な映画作品への理解を深め、さまざまなジャンルの映画に挑戦するきっかけを得られると考えた。したがって、これを本研究の主題とした。

2, データの項目について

参考文献1(後述)より、興行収入に関係のありそうな項目を11個選んだ。

rank	世界歴代興行収入の順位(1-100までの整数値)。
title	英語版タイトルの単語数。参考文献1のTitle欄の語数で調べた。
area	映画の制作国の地域。世界の地域区分に倣い、6つに分けた。 1:アジア州 2:ヨーロッパ州 3:アフリカ州 4:北アメリカ州 5:南アメリカ州 6:オセアニア州

length	映画の長さ（分）。
revenue	興行収入（米ドル）。
year	公開された年。
month	公開された月(国ごとに変わるため一番早いものとした)。
genre	映画のジャンル(参考文献1, Genre欄より)。 1: Action 2: Drama 3: Adventure 4: Musical 5: Comedy 6: Thriller/Suspense

budget	制作予算(米ドル)。
source	脚本の原作。 0: Original Screenplay 1: Based on Fiction Book/Short Story/Factual Book/Article 2: Based on Comic/Graphic Novel 3: Based on Folk Tale/Legend/Fairytale 4: その他(Remake/Toy/Game等)
opening	初めの週の興行収入が全体の何%を占めるか

※74位,96位は米国で未上映でありOpening Weekendのデータがなかったため、0とした。

※予算が公表されていない場合は0とした。

3. 参考

作成した

CSVファイルの

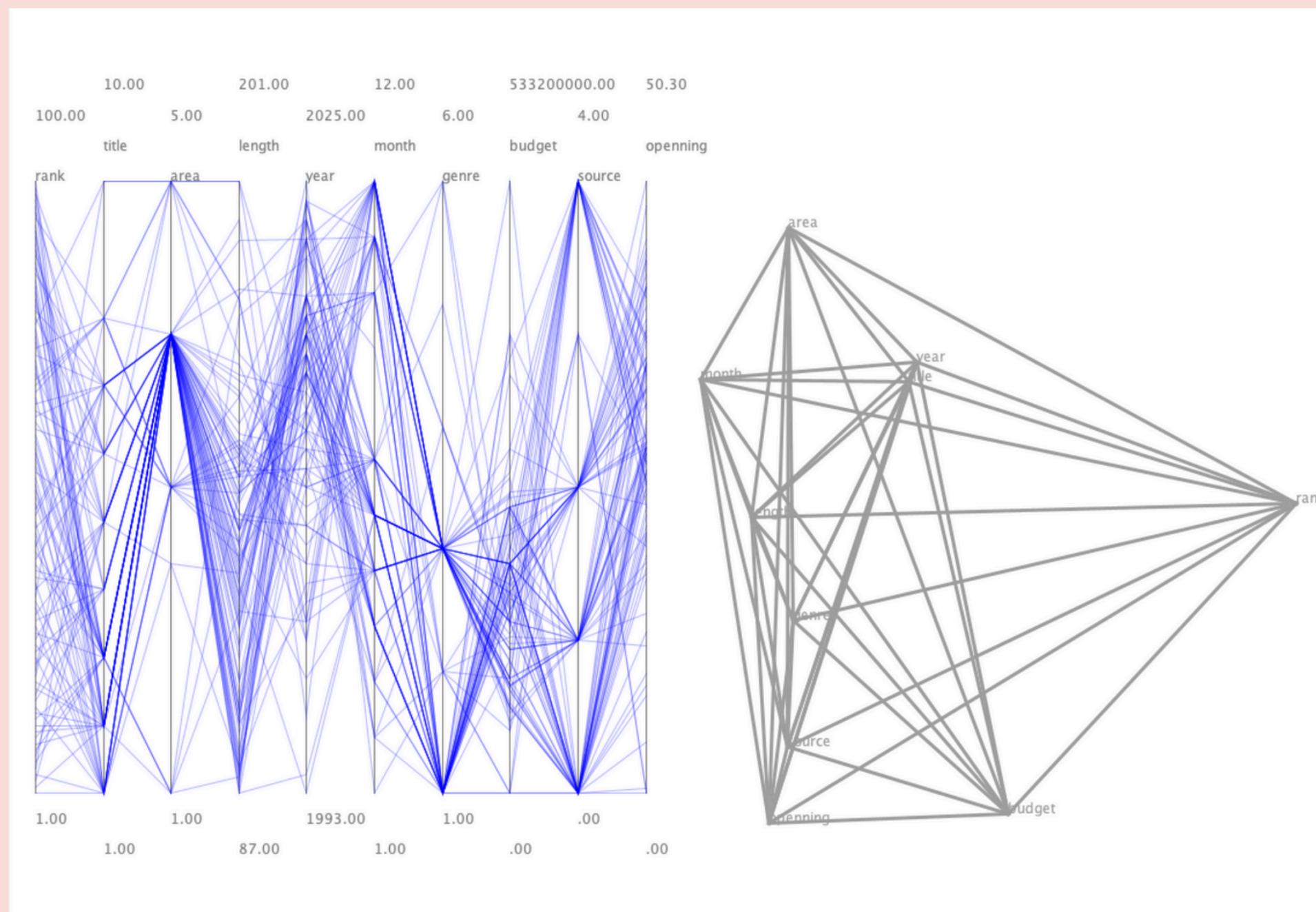
一部を右に示す。

assign										
Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric
rank	title	area	length	revenue	year	month	genre	budget	source	opening
1	1	4	162	2923706026	2009	12	1	237000000	0	9.8
2	2	4	181	2748242781	2019	4	1	400000000	2	41.6
3	5	4	190	2313161020	2022	12	1	400000000	0	19.6
4	1	4	194	2223048786	1997	12	2	200000000	0	4.2
5	7	4	136	2056046835	2015	12	3	533200000	0	26.5
6	3	4	156	2048359754	2018	4	1	300000000	2	38
7	5	4	148	1921206586	2021	12	1	200000000	2	31.9
8	3	4	100	1698863816	2024	6	3	200000000	0	23.6
9	2	4	124	1671063641	2015	6	1	215000000	1	32
10	3	4	118	1661454403	2019	7	3	260000000	4	35.3
11	2	4	143	1515100211	2012	4	1	225000000	2	33.3
12	2	4	137	1511986364	2015	4	1	190000000	0	41.7
13	3	4	131	1455073504	2022	5	1	177000000	0	17.6
14	2	4	103	1451653316	2019	11	4	150000000	3	27.3
15	1	4	114	1447585476	2023	7	5	145000000	4	25.4
16	4	4	141	1395316979	2015	4	1	365000000	2	41.7
17	5	2.5	92	1359146628	2023	4	3	100000000	4	25.5
18	2	4	127	1338071348	2024	7	1	200000000	2	33.2
19	2	4	120	1334157082	2018	2	1	200000000	2	28.9
20	7	4	150	1322581071	2017	12	3	262000000	0	35.5
21	8	3	131	1311466306	2011	7	3	125000000	1	44.3
22	4	4	128	1308323302	2018	6	1	170000000	1	35.4
23	1	4	102	1271023300	2013	11	4	150000000	3	0.1
24	4	4	123	1268697483	2017	3	4	160000000	4	34.7
25	2	4	118	1242805359	2018	6	3	200000000	0	30

4. 分析結果と考察

4.1 実行結果

この実行結果左図から、映画制作国の地域が北アメリカに偏りがあること、映画のジャンルはActionとAdventureに偏りがあることがわかった。今回、項目にrankとrevenueを入れてしまい、相関が強くなったため、rankの項目を消して新しく可視化してみる。



4.2 実行結果(改)

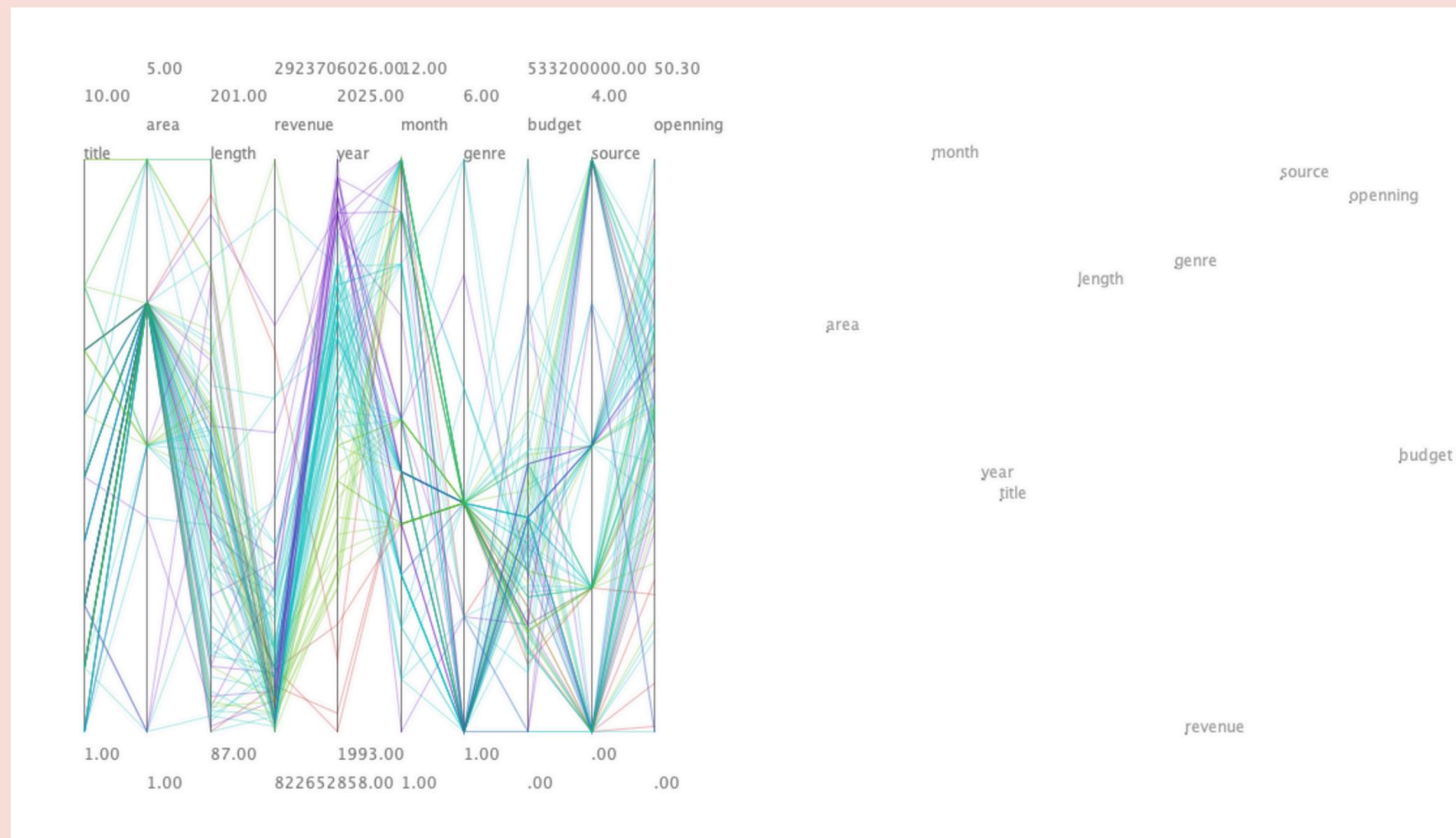
右がrankを除いて可視化した図である。散布図を見ると、赤丸で示したようにrevenueが他と離れており、興行収入は他の項目との相関が小さいことがわかる。しかし、今回は興行収入の高い映画が分析の対象であるためrevenue以外の項目の相関に注目してその特徴を探っていく。



4.2 実行結果(改)

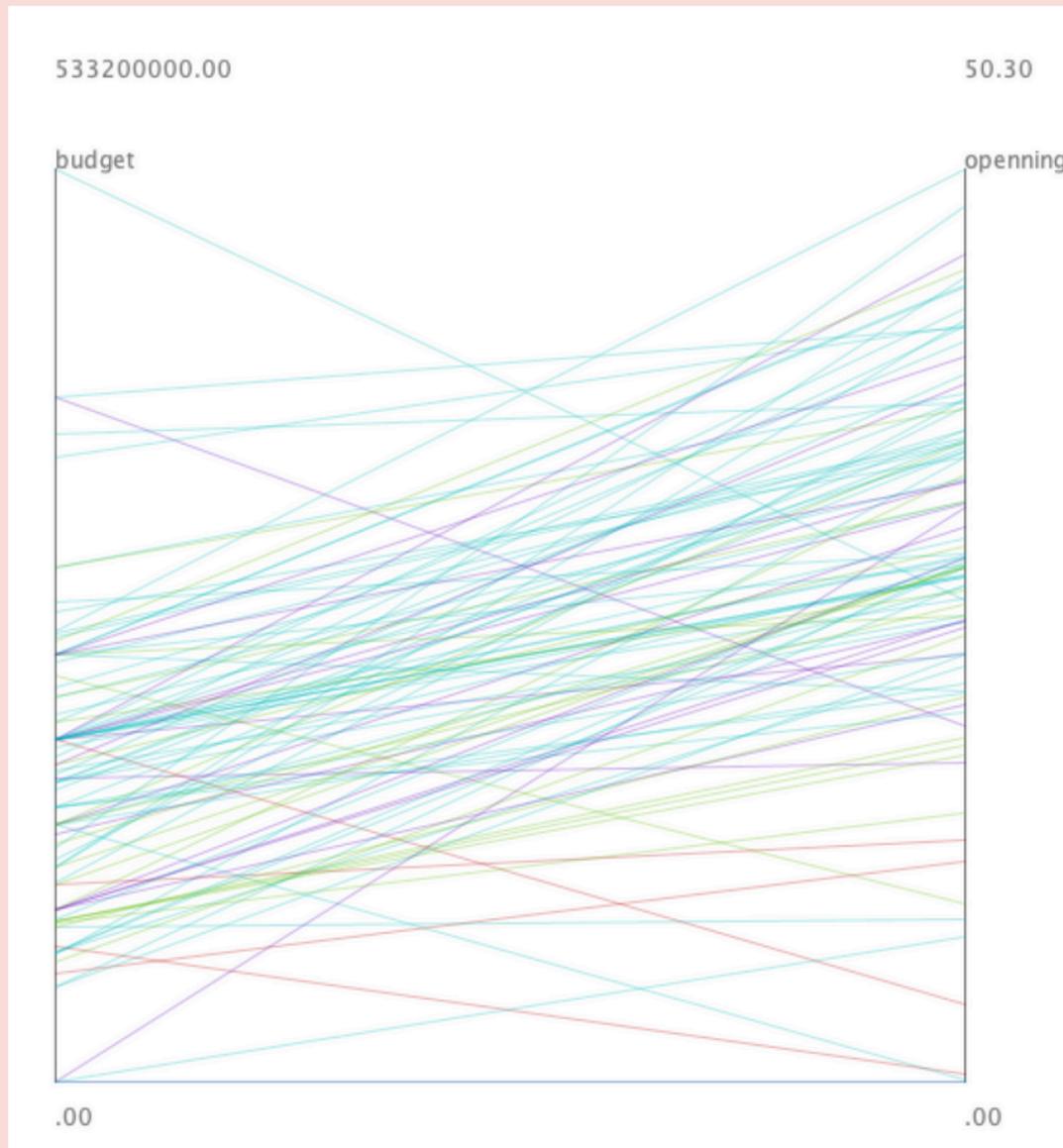
ここで、一色では見づらいため、年代のカテゴリを作り、色分けをした。以降、これを用いて分析をしていく。

赤：1990年代
緑：2000年代
青：2010年代
紫：2020年代



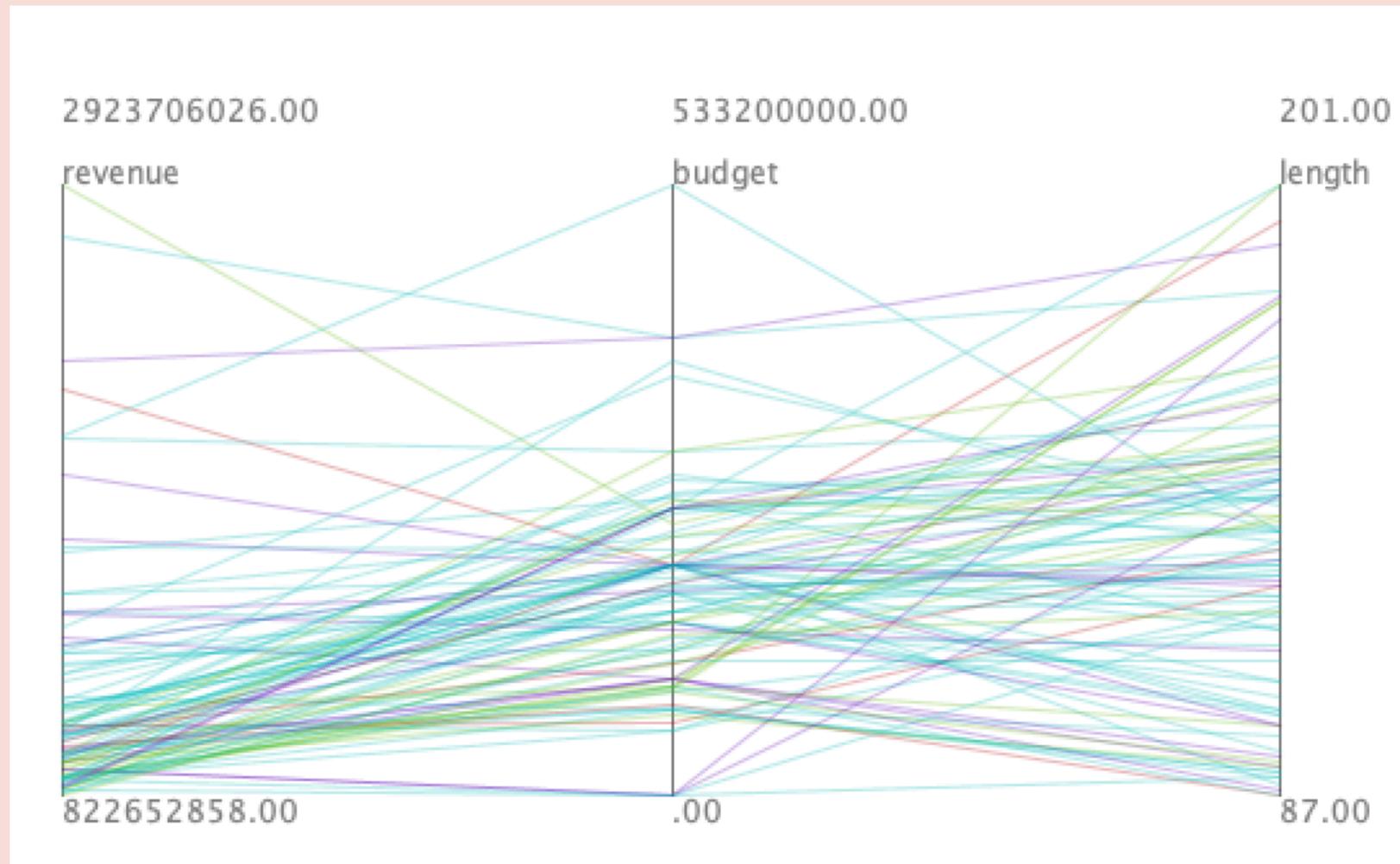
5. 分析・考察

5.1 右上のスライダー①



右上のスライダーを動かすと、散布図上でopeningとbudgetが繋がり、相関があることがわかった。そこで折れ線を見てみると、2000年以降は予算が低い方が、始めの1週間の興行収入が全体に占める割合が大きいことが読み取れた。

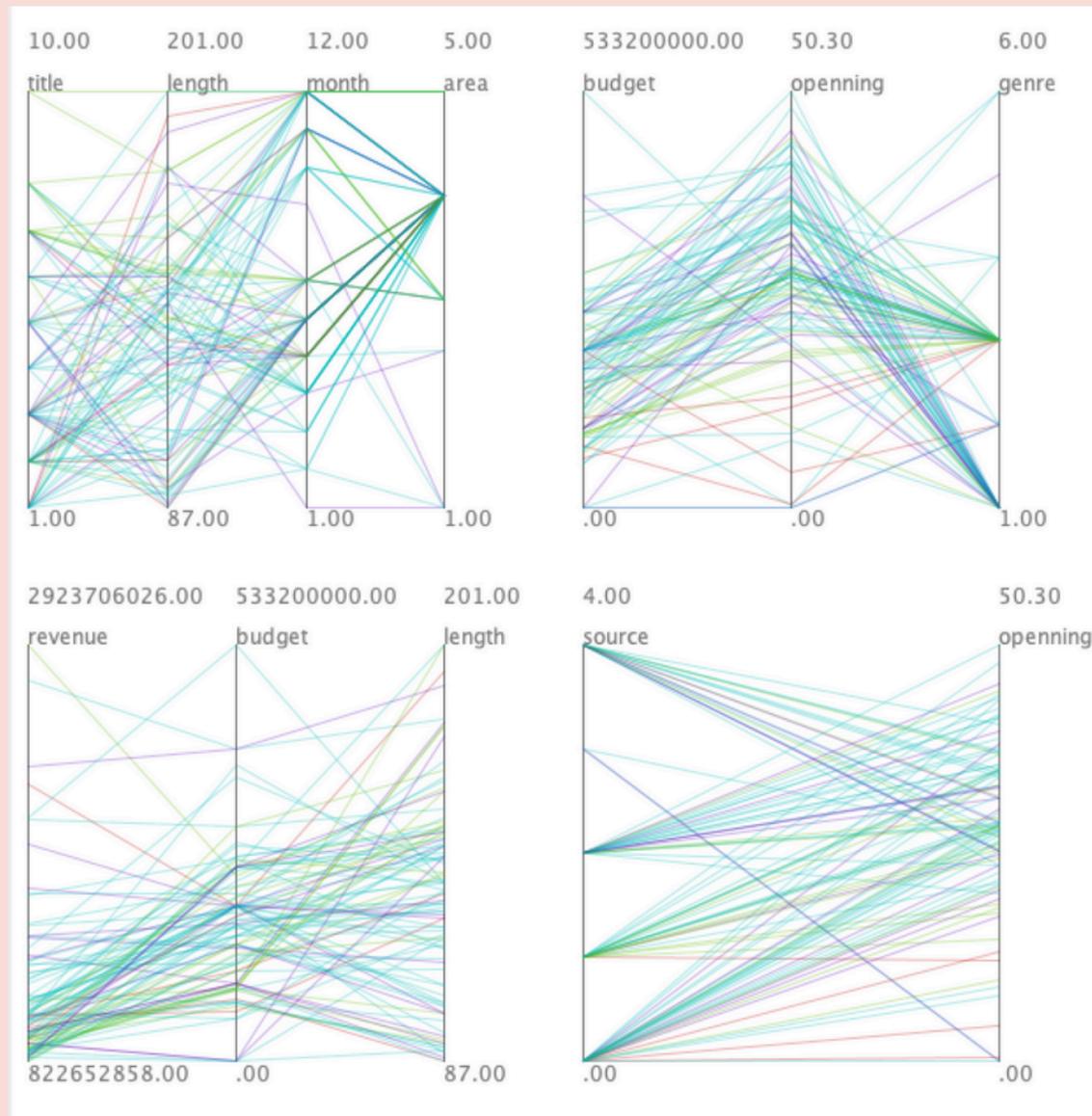
5.1 右上のスライダー②



さらにスライダーを動かすと、budget, revenue, lengthの相関があるとわかった。このグラフからこれら3つにはおおよそ正の相関があることが読み取れる。特に予算と映画の上映時間の相関は強いことが読み取れた。

※ここでbudgetが0となっている映画は予算が公開されていないものであるため、無視した。

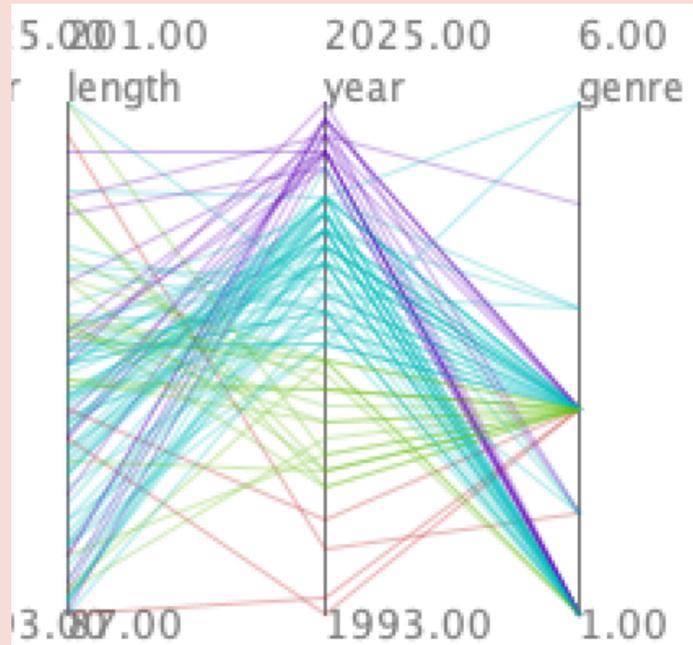
5.1 右上のスライダー③



さらにスライダーを動かすと左のような結果が得られた。左上からは北アメリカ州の興行収入TOP100の映画はどれも2-7月、10-12月に限られており、夏の映画はあまりヒットしない傾向にあることが読み取れる。また、右上からはジャンルがActionの場合、初週の興行収入が多いことが読み取れる。右下のグラフからは原作がある場合は初週の興行収入が高くなる傾向があることが読み取れる。

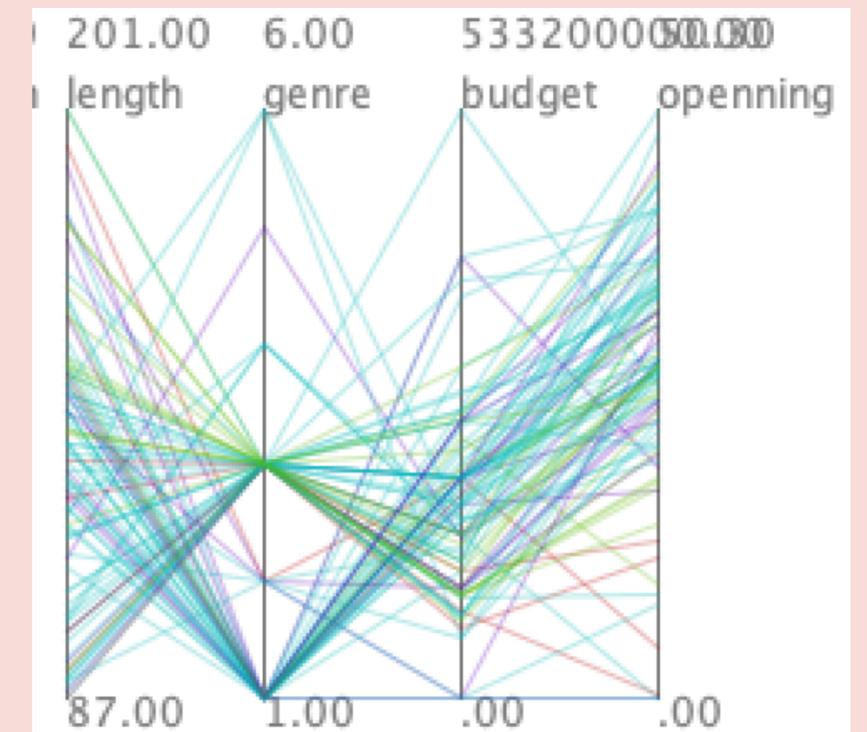
※左下のグラフは分析・考察②と同様である。

5.1 右上のスライダー④

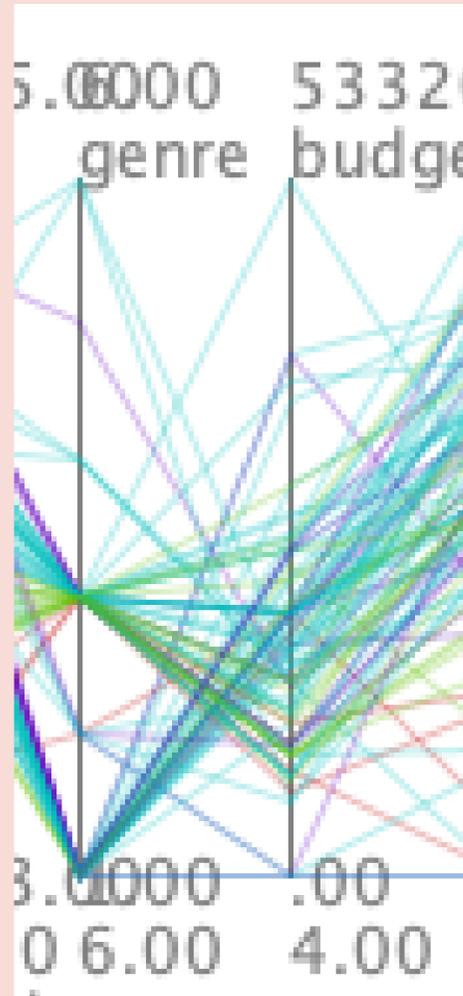


左図のlengthとyearの関係から、最近の映画は昔のものに比べ上映時間が短いことが読み取れる。また、yearとgenreの関係からは、Actionは近年人気である一方、Adventureはどの時代でも人気であることが読み取れた。

右図のlengthとgenreの関係より、Actionは上映時間が長い傾向にあることが読み取れた。

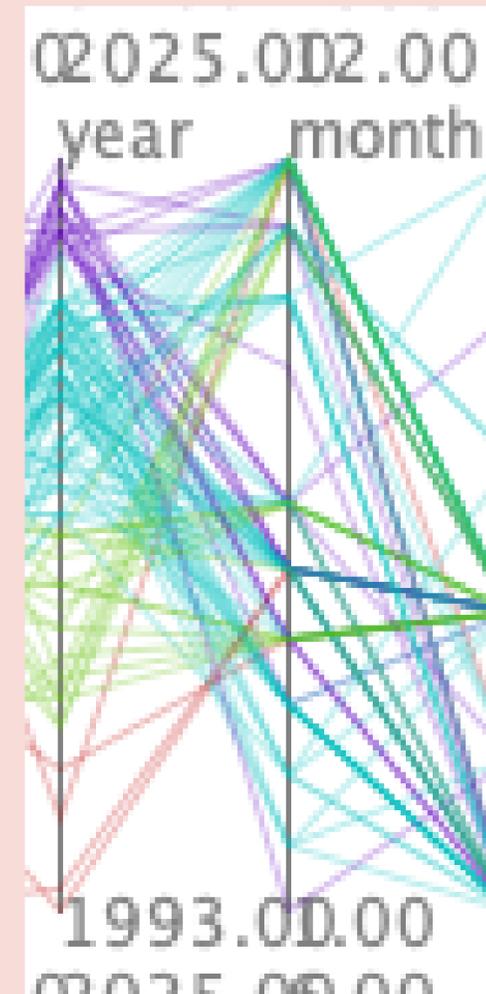


5.1 右上のスライダー⑤



左のgenreとbudgetの関係から、ActionはAdventureと比べて、全体的に予算が高くなる傾向があることが読み取れた。

右のyearとmonthの関係から、1990年代後半から2010年代前半にかけては10-12月の秋冬に公開された映画がTOP100に入っていたが、2010年代後半ごろからは1-7月、特に4-7月に公開された映画がTOP100に入っていると読み取れた。

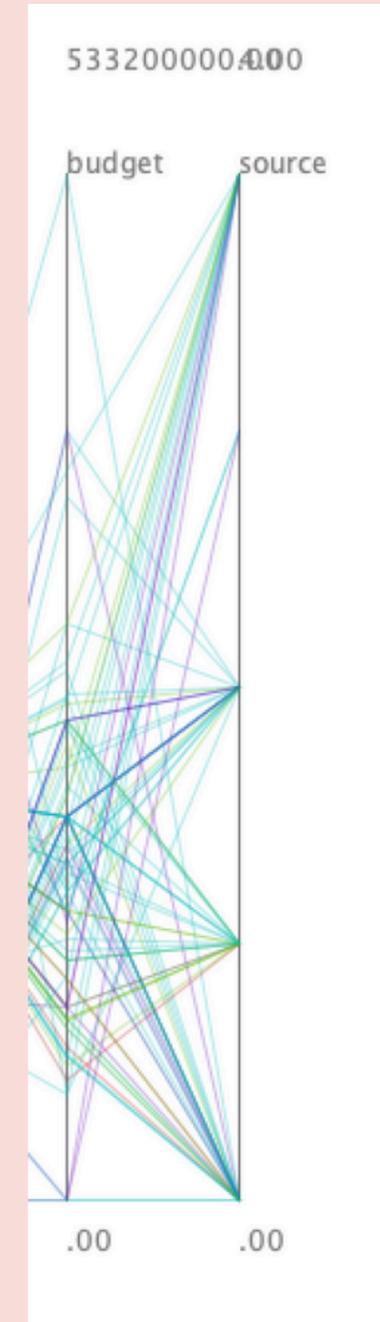


5.2 Cullingスライダー①



左のtitleとareaの関係より、北アメリカ州とオセアニア州の合作は北アメリカ州の作品より、タイトルが長くなる傾向があることがわかった。

右のbudgetとsourceの関係より、私ははじめ原作のある方が人気が予想されるため、予算も高くなるのではないかと考えていたが、そのような相関はないことが読み取れた。



6. まとめ

世界歴代興行収入TOP100の映画について、以下のような傾向があることがわかった。

- ・ 2000年以降は、予算が低い方が初週の興行収入が全体に占める割合が大きい
- ・ 予算が多いほど、映画の上映時間も長い
- ・ 北アメリカ州の夏の映画は興行収入TOP100に入らない傾向にある
- ・ ジャンルがActionの場合、初週の興行収入が多い
- ・ 原作がある場合は初週の興行収入が高い
- ・ 最近の映画は昔のものとは比べ上映時間が短い
- ・ Actionは近年人気である一方、Adventureはどの時代でも人気である
- ・ Actionは上映時間が長い傾向にある
- ・ ActionはAdventureと比べて、全体的に予算が高くなる

6. まとめ

- ・ 1990年代後半から2010年代前半にかけては10-12月の秋冬に公開された映画がTOP100に入っていたが、2010年代後半ごろからは特に4-7月の春夏に公開された映画がTOP100に入っている
- ・ 北アメリカ州とオセアニア州の合作は北アメリカ州の作品より、タイトルが長くなる傾向がある

これらの傾向から、以下のようなことが考察できる。

- ・ 今人気が出やすい映画の特徴は、4-7月に公開される原作のあるAction映画で比較的上映時間が短いものである。
- ・ 大ヒット作を狙うのであれば、夏、特に8-9月の公開は避けるべきである。

7. 感想

はじめ、興行収入TOP100の映画には何らかの相関があると考え、分析を行ったが、顕著な相関はあまり見られなかったように感じた。ただ、データを作成する過程で、映画の制作国がアメリカに偏っていることに気づき、ハリウッドの影響力の大きさを実感した。また、近年ではアクション映画の人気の非常に高まっており、私が普段観るジャンルとは異なるため、今後はアクション映画にも挑戦してみたいと思った。この可視化は、映画鑑賞が趣味の私にとって非常に有益なものであった。これから映画を観る際には、これまでとは異なる視点で楽しめそうだと感じている。

8, 参考文献

1. All Time Worldwide Box Office (The numbers).
(<https://m.the-numbers.com/box-office-records/worldwide/all-movies/cumulative/all-time>)